

多摩だより

相談員在室日：月・火・水

《教職の魅力について(最終回)》

【相談指導員：川嶋 克弘】

私は社会科の教師として35年間、公立の中学校に勤めていました。その間、学級担任を32回担当しました。担任にならなかったのは新規採用時の1年目と育児休業をとった年、そして父の介護の必要が生じた教職最後の年の3回だけです。勤務先の校長先生からは何度か管理職選考試験を受けるよう声をかけられましたが断り続けていました。何故なら社会科の教師として授業をすることと、学級担任として生徒達と直接関わることに何よりも教師としての魅力を感じていたからです。

社会科の授業では、私は生徒達により良い人生を生き、より良い社会を形成していく主権者としての力を身につけてもらうことを第一に考えてきました。また学級経営では、誰もが平等で差別のないクラス、多様性がありお互いを尊重し合えるクラス、そして必要な時は協力・協働することができるクラスづくりを心がけてきました。

35年間の教員生活を振り返ると、辛かったこと、苦しかったことも多々ありましたが、圧倒的に幸せな人生だったと断言することができます。常に生徒と共にあること、常に生徒の幸せを考えること。ここに教師という仕事の最大の魅力があると私は思っています。

3年生になる前、3年の担任の先生は川嶋先生であって欲しいと思っていました。先生はいつも何にでも本気で、こんな先生と中学校生活最後の1年間を過ごしたいと思っていました。そしてクラス発表の日、私の担任の先生が川嶋先生で本当にうれしかったです。

先生と一緒に1年間過ごすことができ、幸せでした。体育大会や合唱コンのときも今までで一番クラスが団結していたと思いました。両方とも入賞することはできなかったけれど、私にとってはとっても最高な時間でした。

この1年間先生と生活して、私は将来の夢を見つけました。それは先生のような教師になることです！！そして先生と一緒に仕事をする！というのが私の夢です。

川嶋先生のおかげで充実した1年を過ごすことができました。この1年は私の一生の宝物です。1年間本当にありがとうございました。

上の文章は卒業を間近に控えた時期に、ある生徒が私に書いてくれた手紙の文章です。教師にとっては生徒たちとの出会いこそ一生の宝物です。3年間かかわった生徒たちが卒業していくのは喜ばしいことなのですが、担任にとっては同時にとても切ないことでもあります。何故なら、かわいくて仕方がない生徒たちが巣立ってしまうのですから。

卒業式後、担任はしばらく魂が抜けたような状態になります。でも大丈夫。2週間もすれば、またかわいい新入生たちがやって来るのですから。教師という職業は本当に魅力に溢れています。

※2025年度新3年生へ 下記期間中に履修カルテを提出・受領してください〈期間厳守！〉

■【提出】2025年4月1日(火)～4月15日(火)

■【返却】2025年5月19日(月)～5月27日(火)

* 場所：教職課程センター多摩相談室

◎教職相談の申し込み、質問はこちらへ

★窓口へ来室、もしくはメールにて事前申し込み★

メールは、公的な依頼文にふさわしい文体・体裁を考え、かつ以下の内容を必ず盛り込むようにして下さい。

- ①氏名 ②学部・学科 ③学年 ④学生証番号 ⑤面談希望時間(第3希望まで)
⑥相談内容 ⑦メール・アドレス(PCから受信可能なもの)を必ず記入してください。

* 宛先：kyoshokutama1@ml.hosei.ac.jp

※教職履修・単位
に関わる質問は、
所属学部窓口へお
願いたします。